

埼大附属中の 卒業生に聞く 帰国生徒の魅力とは？



写真：左、66回卒業生奥村さん 右、70回卒業生田名部さん



写真：手前、66回卒業生奥村さん 奥、70回卒業生田名部さん

埼大附属中帰国生徒卒業生インタビュー

中学校時代に培った力で、

未来の国際社会の担い手に。

——どんな中学生でしたか？

奥村 静かで人見知りの傾向がある生徒でした。積極的な何かをするわけではなかったですね。

田名部 僕は、特徴なく、平凡な生徒でした。バスケットボール部に所属していて、部活を頑張っていましたね。

副校長 もったいなかったなあ。力はあるけど前に出るタイプではなかったね。

——学校になじめそうでしたか？

奥村 いや……。滞在国との価値観の違いや集団行動に慣れることへのプレッシャーがありました。

田名部 帰国生徒枠があったから、帰国生への理解があると感じましたね。帰国生だからといって馬鹿にされたりすることは無かったです。

——思い出に残っていることはありますか？

奥村 三年生が特に楽しかったです。行事はもちろん、日々の生活そのものが楽しかったです。

田名部 帰国生徒で浅草に行ったことが印象的でした。日本の文化を学ぶ機会を頂けて良かったと感じています。

奥村 定期テスト前・夏休みの帰国学習勉強会や百人一首の大会も記憶にありますね。

——帰国生として、滞在国の経験があって良かったことや苦労したことは？

奥村 私は、フィリピンでの生活により、視野が広がりました。また、学習会で、滞在国を発信する場があって良かったです。

——日本の生活に慣れる点は苦労しましたか？

奥村 逆カルチャーショックは大きかったです。滞在国と日本の学校生活のリズムの違いを受け入れることが一番苦労しましたね。

田名部 僕は、周囲から帰国子女扱いされなかったのが良かったです。一般的には、帰国子女クラスがあり、英語で授業等を行う学校が多いと思いますが、附属中で行われている通常学級で学習し、月に何度かの放課後に帰国学習

滞在国での経験は、財産。 私だからこそ、見える世界がある。



写真：左66回卒業生奥村さん 右70回卒業生田名部さん



写真：70回卒業生田名部さん



写真：66回卒業生奥村さん

の授業があるシステムが、日本人のアイデンティティを捨てることなくいられる気がしました。計算や漢字は良いトレーニングになりましたね。最初は、日本語が話せなくて苦勞しましたが、先生方が見守ってくれた感じが良かったです。また、社会の授業で滞在国の経験を話す機会があり、自分が必要とされている気がして、嬉しかったですね。

—お二人にとって帰国生徒学習会は

どんな場所でしたか？

田名部 帰国生徒学習会で分らないところを先生に聞きやすい雰囲気があったため、頑張れました。

奥村 帰国のコミュニケーションに親近感ありましたね。憩いの場のような。

田名部 憩いの場。いい言葉ですね。少し、肩の力を抜いてリラックスして取り組める場でした。

—クラスの中に、

奥村 帰国生徒が混じることを、どう思いますか？

田名部 多様性を感じられていいと思います。双方に学び合える場でした。

奥村 本場の国際的な人材を育成するには、単純に英語が喋れるだけでなく、自国の文化を知っていることで滞在国の文化や価値を比較することが出来ると感じています。そこがあるから理解が深まるし、本当に国際的な人材が育つのではないかと……。

一同拍手

—では、附属中の帰国生徒として、
今に生かされていることはありますか？

奥村 掃除や給食など日本の生活習慣や時間を守ることは他国では珍しいです。学校生活で学んだ生活の部分が今に生きている気がします。

田名部 僕は、経験を語ることの大切さを学びました。最初は、自分の意見を言うことが怖かったです。ですが、自分のストーリーを語ることで、先導していくことの大切さを感じました。自然と知的好奇心のある人と仲間になれますね。大学進学も国外から国内かで迷いました。コロナもあり国内にしましたが、今後の進路



当時の担任の先生と生徒で記念撮影。



久々の再会に談笑する卒業生と副校長

は外国で考えています。

——在校生からの質問です。

「英語を上手に話せないが故に、

帰国生として自信が持てないところがあります。

どうしたらよいでしょうか。」

奥村 言語のうまさではなく、伝える意思を持つ
かどうかではないでしょうか。

田名部 流暢な会話よりも中身のある内容の話が
英語でできるようにする必要がありますよ
ね。

——最後に、附属中の帰国生徒への
メッセージをお願いします。

奥村 ぜひ、自分の経験を肯定的に捉えて、人生
に生かしてください。

田名部 埼大附属中は、帰国生徒のを受け入れ
てくれる場所。そのような環境で、自分の意
を伝え、外向きの視野を持つと良いと思いま
す。その力を卒業後、後輩たちに還元して
ください。

——本日は、素敵なお話ありがとうございました。

奥村 こちらこそ、ありがとうございました。

田名部 ありがとうございました。

奥村真帆 おくむらまほ 平成十年生まれ
埼玉大学教育学部附属中学校の前はフィリピンの
日本人学校に在籍
その後、タイ王国の大学へ進学。
現在は、安全保障研究、日中の平和構築やミャン
マーの女性社会進出等に取り組む、国際協力NG
Oに勤務している。

田名部智也 たなぶともや 平成十六年生まれ
埼玉大学教育学部附属中学校の前は、アメリカ・
ドイツのインターナショナルスクールに在籍。
東京大学理科一類に在学中。トライリンガルとし
て勉学に励んでいる。



お二人とも、ご協力ありがとうございました。